



大阪学院大学教授 中山嘉彦さんにお話を伺いました。

大阪学院大学経済学部教授で、著名な鉄道研究者でもある中山さんが昨年10月当協会に入会されました。中山教授のお話を掲載します。

中山さんの行っておられる鉄道の研究内容を教えてください。

おもに鉄道技術史を研究しています。最近では京阪電気鉄道60型「びわこ号」が定説と異なる1926年に申請されていたことを明らかにし、その技術的背景として当時の欧米連節車動向を加えた論文を『産業考古学』に掲載しました。また、各機器の技術史をメーカー別に整理したり、鉄道車両の音・色の側面を音響工学・色彩工学手法で説明することも試みています。

貨物列車とのご縁は？

国鉄阪和線でEF52形・ED60形、南海電気鉄道でED5101形等凸形電気機関車が牽く貨物列車に接したのが原点です。その後、鉄道友の会に入会し、本部ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員在任中にHD300形がローレル賞を受賞しました。セレモニーでは日本貨物鉄道(株)代表取締役社長田村修二様、選考委員会でご高配くださいました岩沙克次様はじめ皆様に誠にお世話になりました(写真1)。



写真1 左:HD300-1、右:HD300-901
(東京貨物ターミナル駅、2012.11.18)

同会阪神支部では吹田機関区、吹田貨物ターミナル駅、百済貨物ターミナル駅を見学させていただき、ご講演をお願いいたしました百済貨物ターミナル駅長成宮禎治様からご仕事を多面的に学ばせていただきました

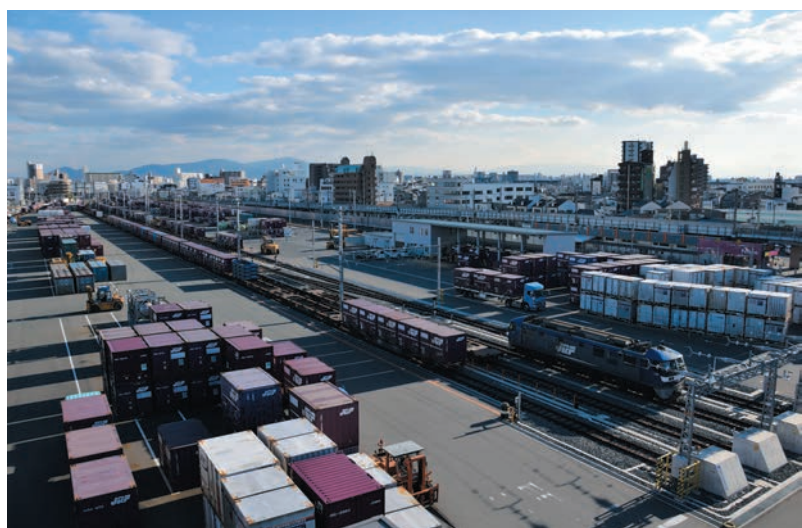


写真2 百済貨物ターミナル駅遠景
(2014.12.09)

(写真2)。ハイテク機関車が増え、貨物列車速度も向上しましたが、轟進する独特の重量感は少年時代に接した感触と異ならないと思っています。

2016貨物時刻表をご覧になった感想は？

日本の貨物輸送を確実に学べる「教科書」と感じています。私鉄を含む国内事例に加え、SEA & RAIL サービス・イギリスのモーダルシフト収入補助金等の国際物流・海外事例も掲載されていますのは誠に示唆に富むといえるのではないのでしょうか。構内入換も記された機関車運用表やダイヤグラムからはご仕事も学べると感じています。

鉄道貨物輸送への思いや期待することがあれば…

職場にほぼ隣接する吹田貨物ターミナル駅を遠望しながら、行き交う貨物列車によって日本経済や日々の暮らしが支えられていると実感しています。時代の変化でしょうか、迅速なモノの輸送が以前に増して求められていると感じています。貨物列車定時運行率がさらに向上し、鉄道が貨物輸送で果たす役割がますます増大することを期待します。

※写真1、2は中山さんが撮影されたものです